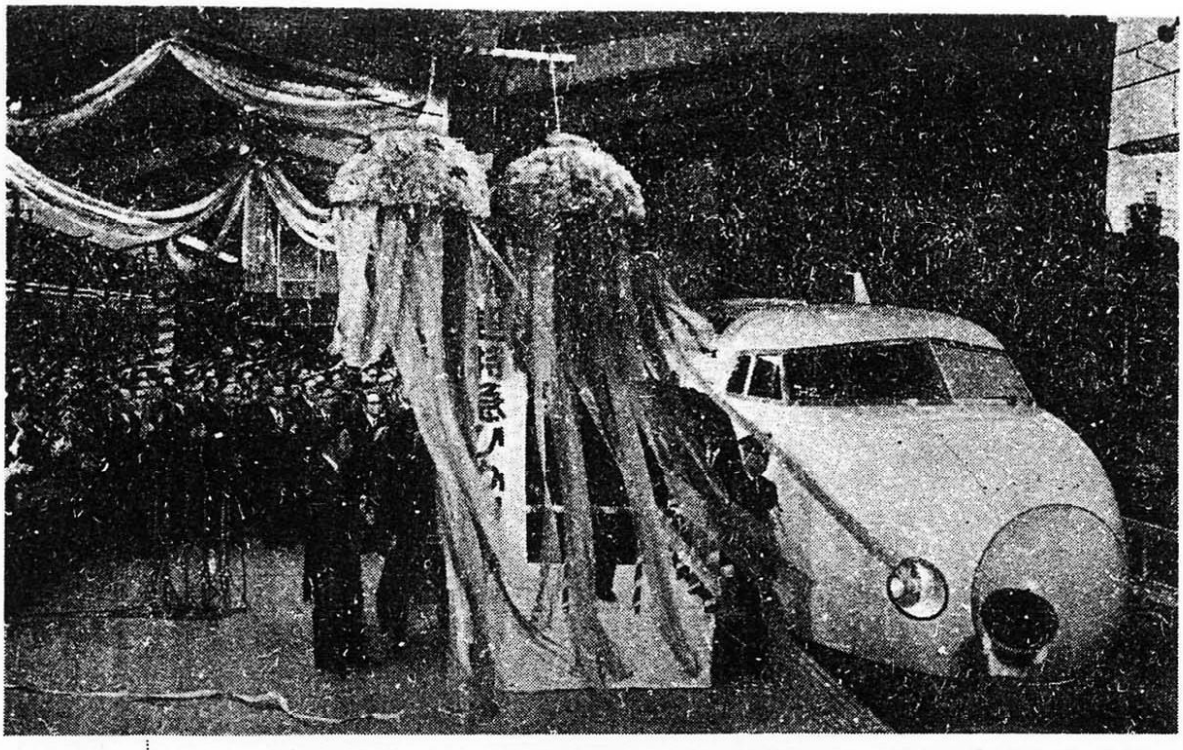
東海道新幹線スタート



晴れの超特急 ひかり1号
関係者の見送りのうちに東京駅9番ホームを出発（午前6時ちょうど）

マーチに送られ初列車

輸送力は38%ふえる

新しい日本の大動脈――東海道新幹線は一日、開通して開業した。現丸列車の運転が生れてから二十六年、幾十から五年半、国鉄が三千八百億円の工費と最新の技術を結集してつくり上げた、世界で最も速い列車"夢の超特急"の誕生である。東京の両ターミナル、東京駅と新大阪駅では、この日早朝、初列車の出発式が行われ、定刻六時、初列車「ひかり1号」上り「ひかり2号」は、ブラスバンドに送られて西と東へ同時に出発。東京・丸ノ内の国鉄本社では、午前十時十分から、天皇、皇后両陛下をお迎えして、新幹線の門出を祝う開業式が行われた。

＝写真特集3面、関係記事10面＝

東京駅の出発式は、初の下り列車「ひかり1号」がピタリと横付けされた九番ホームで午前五時四十五分幕を開けた。紅白のモールやクス玉で花やかに飾りつけられたホームは、ブラスバンドのにぎやかなマーチが、明けやらぬ薄明りを吹飛ばすようにとだまし、たちまち祝賀客がいっぱい。

式は、まず東・東京都知事が、左隣大阪府知事、中馬大阪市長にあてたメッセージを朗読し、初列車の井上満車掌に伝達を依頼した。あと、都内の小学生から石田国鉄総裁、初列車の山本幸一運転士ら四人に花束贈呈。間もなく定刻「分前の発車ベルと出発の警笛。石田総裁が紅白のテープを切ると同時にクス玉が割れ、五十羽のハトがはばたき、祝砲二十一発の花火が景気よくとどろいた。

ブラスバンドの演奏も急調、「蛍の一番……」のメロディーを織込んだ「超特急」の調がいちだんと高まるなかを、初乗り客で満員の列車は軽快なレール音をひびかせてホームをすべり出した。

新幹線開業式で、おことばをのべられる天皇陛下と皇后陛下（国鉄本社で）

両陛下、開業式にご出席

一方、天皇、皇后両陛下をお迎えした開業式は石田総裁ら国鉄幹部、先輩のほか、政府閣僚、国会議員ら約二百七十人が参列して壮重に挙げられた。天皇陛下のお祝いのおことばに対して、石田総裁は「おことばを体して、われわれ四十五万の国鉄職員は一致協力、今後いっそう努力いたします」と力強くお答えした。このあと、船田衆院議長、重宗参院議長、松浦運輸相がそれぞれ祝辞を述べ、式典は終った。

こうして、新幹線は、開通して開業の日を迎えたが、新幹線のもたらす効果は大きい。開業後当分の間の列車運転本数は、東京―新大阪間四時間運転の超特急「ひかり号」十四往復、五時間運転の特急「こだま号」十二往復、東京―名古屋間などの区間特急四往復三十往復となっている。

これだけでも、現在東海道線と合わせて東海道関係の輸送力は、現在の三八%増しとなり、旅行に要する時間も、これまでの東京―大阪間六時間半が、二時間半短縮（超特急）される。そして、軌道整備が進捗に進めば、来年四月からは東京―新大阪間超特急二時間は一日五十五往復に増発、さらに四十四年ごろからは、毎日六十八往復の超特急、特急列車が、通勤電車に近い間隔で運転されるようになり、東海道の旅はぐんと楽になるという。

また国鉄では、四十年度からはじまる第三次長期計画で、新幹線「新幹線」の建設を予定し、すでにルート決定のための航空測量もはじめている。

定刻に着く

ひかり1号
ひかり2号

東海道新幹線開業初日の一日早前六時、東京、新大阪両駅を出発した超特急「ひかり1号」、上り「ひかり2号」はほぼ定刻午前十時、それぞれ新大阪、東京駅に着いた。新幹線文社への報告によると、一日早前九時二十六分、名古屋駅に着いた上り超特急「ひかり6号」の一号車のドアがしまらず、九時二十八分発が遅れ、大阪駅に着いた上り超特急「ひかり14号」は大阪・鳥飼の電車基地を出発のさい、パンタグラフの具合が悪いのを発見、出発が約二十分遅れた。しかし、同列車はスピードアップで遅れをとり戻し、終点羽島駅では七分遅れですんだ。

天皇陛下のおことば

日本国有鉄道の東海道新幹線が幾多の困難にうちかって、見事に完成し、本日、その開業式を迎えるに至ったことは、私の深く喜とするところであります。

わが国の鉄道は、近年著しい発達を遂げ、国民生活の向上と繁栄、経済の発展に多大の貢献をしてきましたが、開発当時は、今後更に力を合わせ、輸送力の充実と安全の確保に努め、その使命を達成するよう希望します。

将来は東北への延長も必要

国鉄総裁談

石田国鉄総裁は、一日の東海道新幹線開業式のあと、次のように話った。

新幹線の完成で、東京―大阪間の旅行時間が縮まり、輸送力も倍加した。近い将来、三時間運転が実現すれば現在は一時間と高まろう。今後は新幹線を岡山、広島、北九州へと伸ばし、投資効果を一段と高めなければならない。東北方面への新幹線延長も当然考えなければならぬ問題が来よう。

しかし、国鉄には、主要幹線のネック、東京、大阪付近の通勤輸送問題など、早急に解決を要する問題が山積している。新幹線完成で一息つくことなく、その解決に努力したい。

【大阪】新大阪駅の出発式は新装なった四番ホームでおこなわれた。午前五時半、「ひかり2号」がはいり、先頭車のそばのホームにつくられた出発式場には左隣大阪府知事、中馬大阪市長をはじめ国鉄関係者ら約二百人が参加し左隣知事、中馬市長が東・東京都知事へのメッセージを高山組三車掌（まこと）に託した。

朝日新聞（夕刊）
昭和39年（1964年）10月1日